

藤野 あさぎ
FUJINO Asagi



爛漫
型染め、絹布

爛漫

私のテーマは日常生活の中にある小さな喜びである。

私は公園や道端に咲く小さな野花に心惹かれる。小さな野花を探し求めて公園内を歩く時、時間がゆったりと流れる。忙しい日々の中にある穏やかな時間に私は小さな喜びを感じる。小さな喜びが続くような連続模様を纏い、野花の愛おしさに触れ心が穏やかになる型染め着物を制作した。

制作手法として、折り目や形状によって様々な模様を生み出せる切り紙に着目した。

切り紙の同じ形が反復して作られる造形的な連続性のある形で、型染め特有の「型を彫る」ことで生まれる型の制約を生かした模様表現を創案した。スケッチした野花をもとに切り紙で連続模様を制作する。野花本来の美しさや季節を彷彿させる鮮やかな色彩と、切り紙の規則的なリズムに、野花の伸びやかさを取り入れた形を意識して制作した。ステンシル染めで密度のある細やかな表現を加え、型の多様なデザイン造形を追求した。

【クリーピングシンクフォイル】

匍匐枝（ほふくし）で地上近くに広がるように茎が伸び、地面に可愛らしい花を咲かせる。

一面に花が咲く情景を思い浮かべ、春らしい明るく賑やかな色合いで活気溢れる、春の訪れを表現した。

【ニワセキシヨウ】

花の直径が1.5cmほどでとても小さいが、一際目立つ白い花と扁平な茎が魅力的である。特徴的な白い花と茎の形を生かした直線の流れを意識して、構成を行った。白い花を基調として涼しげな色合いで、日の長い夏の日心地よさを表現した。

【ヤブラン】

夏から秋にかけて気温が劇的な変化する環境の中で軽やかに花を咲かせる生命の逞しさに惹かれた。花が茎に密集するように咲くことから、色とりどりの花と蕾を敷き詰めた配置で秋の彩りと豊かさを表現した。